

幸福駅ハッピーセレモニー

参加カップル過去最少

昨年度35組 地元住民利用が減少

帯広市内の旧国鉄広尾線幸福駅でカップルや友人同士が愛を誓うイベント「ハッピーセレモニー」の2016年度参加ペア数が、前年度比3組減の35組にとどまり、過去最少となった。3年連続で前年度実績を下回り、地元住民による利用の少なさが目立っている。

「恋人の聖地」で知られる同駅で思い出をつくってもらうと02年度に開始。帯広観光コンベンション協会が実施主体となり、市内の旅行会社「旅の便利屋」にセレモニーの企画・運営業務を委託している。

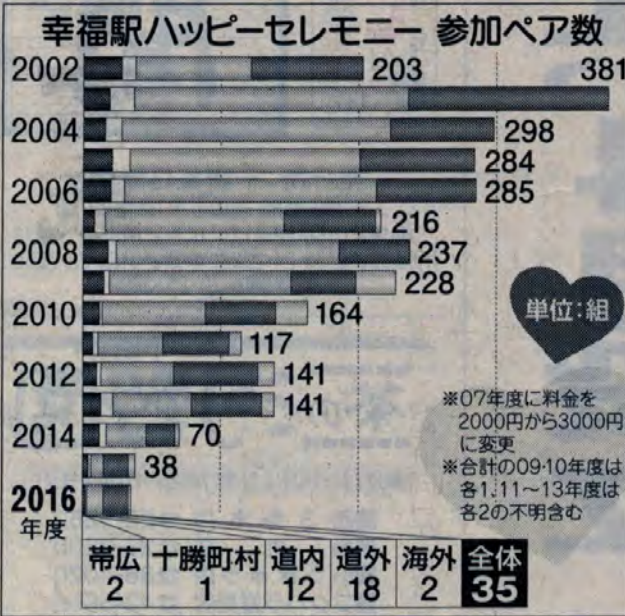
これまでの参加者数は03年度の381組をピークに200組台を維持していたが、10年度は猛暑や雨天を

要因に164組、11年度は東日本大震災に伴う観光の不振で117組に落ち込んだ。14年度から同社の受託業務によるサービスの質の向上が図られた一方、申し込み方法が事前予約制に切り替わって飛び込み客が減ったこともあり、同年度は70組、15年度は38組と年ごとに半減している。

16年度は昨年4月29日

同11月3日の金・土・日曜日（昨年7月16日～同8月31日は毎日）に実施。観光シーズンの夏場は天候不順

や台風に見舞われたが、7、8月ともに月別では最多の8組、9月は6組と目立った影響はみられなかった。また、参加ペアの居住地をみると、道内は前年度3組増の12組、道外は増減なしの18組に対し、十勝管内は市内が同2組減の2組、町村が同1組減の1組でいずれも過去最少だった。海外は同3組減の2組だ



つたが、09年度から途切れることなくアジア圏を中心に好まれている。同駅は昨年10月に台湾新竹県の合興（こうこう）駅と友好駅締結を結んだ縁から、日台の交流促進を見据えた結婚イベントも検討されている。同協会は「外国人観光客の誘致も追い風に、地元の若者に体験してもらえよう」として、認知度を高めていきたいとしている。（小縣大輝）